

財務・経営

法人化後、運営費交付金への効率化係数の導入や総人件費改革など、財務運営が厳しくなる中、以下の取組みを実行しています。

- ◆人件費の抑制、目標チャレンジ活動など業務の効率化も活かした経費節減
- ◆外部コンサルティング導入による事務の合理化
- ◆運営費交付金の特別教育研究経費や競争的資金など必要な予算の確保
- ◆施設整備
 - ・耐震化等の観点から優先順位をつけて計画的な施設整備
 - ・附属病院の再開発を開始

教育

地域社会や国際社会で活躍できる人材の育成
入学から卒業までをサポート

- ◆高等教育創造開発センターや共通教育センターを設置
- ◆社会で通用する能力を修得できる教育プログラムの開発と展開（PBL教育やTOEICを活用した実践英語教育）
- ◆学生総合支援センター設置（学生生活全般に対する相談と支援の体制を整備）

研究・社会連携

- ◆世界拠点形成研究（三重大学COE）の推進、若手研究の支援
- ◆地域貢献型研究の推進
- ◆キャンパス・インキュベータ、サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーによるベンチャー研究の推進、三重大学発ベンチャー企業の支援
- ◆生命科学支援センター：生命科学に関する学際・複合分野の先端研究の推進
- ◆創造開発研究センター：社会連携・地域連携体制の整備
- ◆知的財産統括室による知的財産の創出と啓発活動の展開
- ◆災害対策プロジェクト室の充実
- ◆四日市フロントと東京オフィスの整備
- ◆包括協定：地方自治体、一般企業、教育委員会等との連携、地域貢献活動
- ◆地域文化交流活動の展開

総務

- ◆労働基準法や労働安全衛生法が適正に対応できる組織づくり
- ◆目標チャレンジ活動により、職場単位の創意工夫や改善活動の促進への取り組み効率化・人件費削減への努力
- ◆大学の社会的責任（USR）の一部として環境ISO14001認証取得を目指す（環境省が主催する環境コミュニケーション大賞で「環境報告書2006」が優秀賞を受賞）
- ◆三重県との定期懇談会、市町村や民間企業との連携・協力の活発な動き

国立大学は、平成16年度より国立大学法人として新たなスタートを切りました。この3年間、三重大学はそれぞれの部門でさまざまな取組を行ってきました。

この号では教育と研究を特集しました。



情報・国際交流・広報

情報戦略

- ◆大学内での様々なサービスへの展開力を持つ「教職員・学生の身分証明書のICカード化」「無線LANを用いたU-Campusの実現」、電子図書部門として「学術情報ポータルセンター」の構築、「機関リポジトリ」「歴史街道GIS」などの登場

国際交流

- ◆国際教育部門、国際研究部門、国際サービス部門をもつ「国際交流センター」をスタート
- ◆「3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウム」の三重大学での開催
- ◆「年2回のAPANへの戦略的参加」

広報

- ◆地域広報誌「三重大X(えっくす)」の創刊、他の広報誌のリニューアル
- ◆名古屋の地下鉄栄駅ホームにアンドン広告
- ◆新しい三重大学ホームページが春に登場予定

三重から世界へ

地域に根ざし、世界に誇れる
独自性豊かな教育・研究成果を
生み出す。

基本理念

三重大学は、総合大学として、教育・研究の実績と伝統を踏まえ、「人類福祉の増進」「自然の中で
の人類の共生」「地域社会の発展」に貢献できる「人材の育成と研究の創成」を目指し、学術文化
の受発信拠点となるべく、切磋琢磨する。

特集

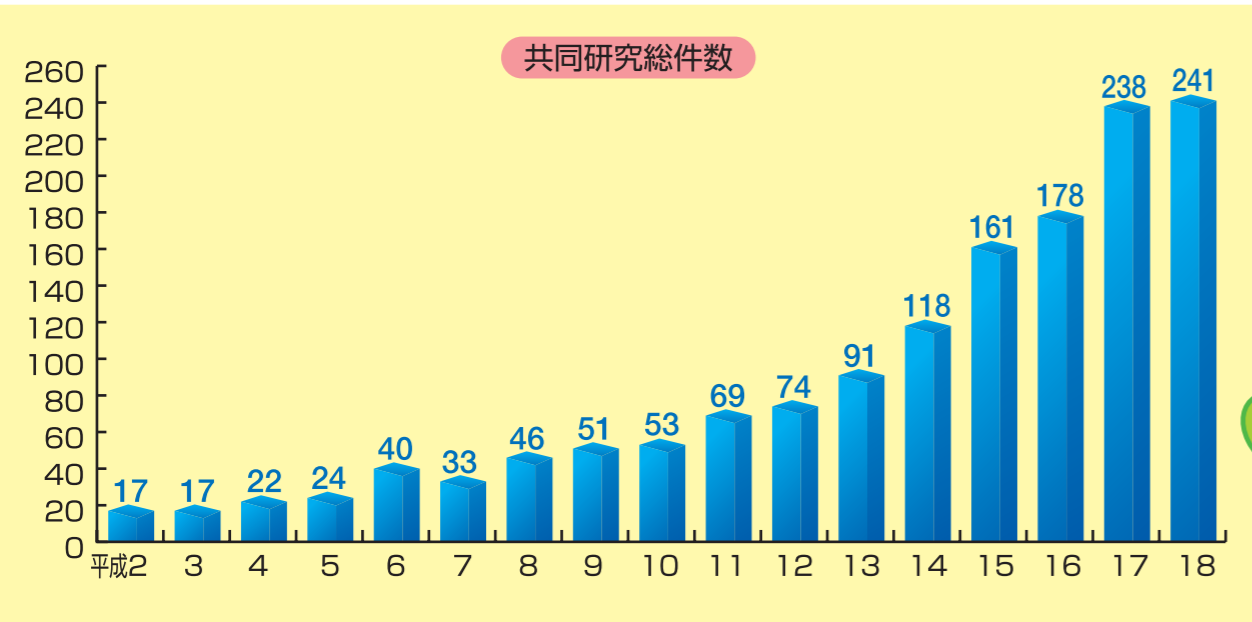
三重大学
法人化から
3年の歩み

人と自然の調和・共生の中で

研究

三重大学では、研究戦略として大きく5つ(右頁の三重大学の研究戦略I~V)に分類し研究を進めてきました。法人化後、独自の研究では特許数も増加し、共同研究では、様々な分野で質・量ともに充実し、さらに躍進を続けています。

三重大学の共同研究(H19.2.9現在)

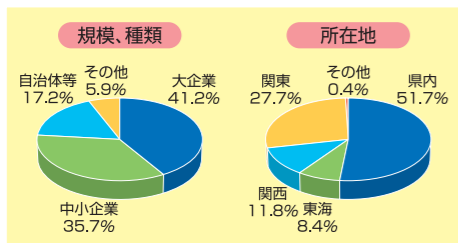


三重大学の研究戦略



<p>新しい素材で 未来の電池を開発</p>	<p>木材の成分から生まれる、 夢の新素材</p>	<p>21世紀の環境保全型植物 「サゴヤシ」</p>	<p>未来エネルギー・コミュニティ の成立工学</p>	<p>地道な基礎研究から生まれる オリジナルがんワクチン</p>	<p>生活習慣病の オーダーメイド予防</p>
<p>ゲノム化学を利用して イネを病気に強くする</p>	<p>人の動きにスムーズに 協調するロボットの開発</p>	<p>次世代のために 植物で環境浄化</p>	<p>ソムリエロボットが 食物の安全性を推定</p>	<p>化石エネルギーに依存しない 人間社会の構築</p>	<p>基礎研究と特許基盤の 開発がアマモ場造成に貢献</p>
<p>世界から注目される マラリア防圧の独自研究</p>	<p>青色発光ダイオードを生んだ 半導体研究の未来</p>	<p>世界唯一の継代飼育と 命の重みを伝える教育</p>	<p>モデル動物を利用した 癌の予防と治療</p>	<p>がん予防の研究成果を 多くの人々へ伝えたい</p>	<p>食による癌の一次予防を 啓発するエビデンスの開発</p>
<p>人と環境に優しい バイオエタノール研究</p>	<p>産学連携の 未来を創る</p>	<p>新しい食資源、海藻の機能を 人々の健康に役立てる</p>	<p>地域の疾病の原因究明が、 世界の神経難病への新たな光に</p>	<p>3次元注文システムを通じて 心豊かな装いを楽しんで</p>	<p>尾鷲の魅力伝える古文書を 町おこしの出発点に</p>
<p>血栓症の急増に歯止めをかける 国際賞受賞の研究</p>	<p>四日市公害を原点に、 未来へ・アジアへ</p>	<p>熊野灘の マッコウクジラを追う</p>	<p>「乗物酔」の メカニズム研究</p>	<p>サプリメントの安全性 評価の重要性を提言!</p>	<p>決め手はスパイス 食文化研究</p>

共同研究の相手先(H17年度)



共同研究・受託研究国立大学法人別合計受入額(H17年度)

順位	機関名	件数	全体金額(千円)	順位	機関名	件数	全体金額(千円)
1	東京大学	1,803	26,558,391	11	東京農工大学	355	1,818,197
2	京都大学	1,168	11,532,691	12	神戸大学	347	1,468,440
3	大阪大学	1,148	11,144,091	13	三重大学	346	818,142
4	東北大学	962	9,184,880	14	山口大学	335	1,750,122
5	九州大学	833	6,136,352	15	静岡大学	321	1,142,135
6	北海道大学	771	5,529,466	16	千葉大学	314	1,209,856
7	東京工業大学	683	5,153,086	17	岡山大学	311	1,229,298
8	名古屋大学	627	3,496,171	18	岐阜大学	311	862,142
9	筑波大学	477	2,180,084	19	信州大学	307	1,097,096
10	広島大学	366	1,524,852	20	名古屋工業大学	273	1,149,045

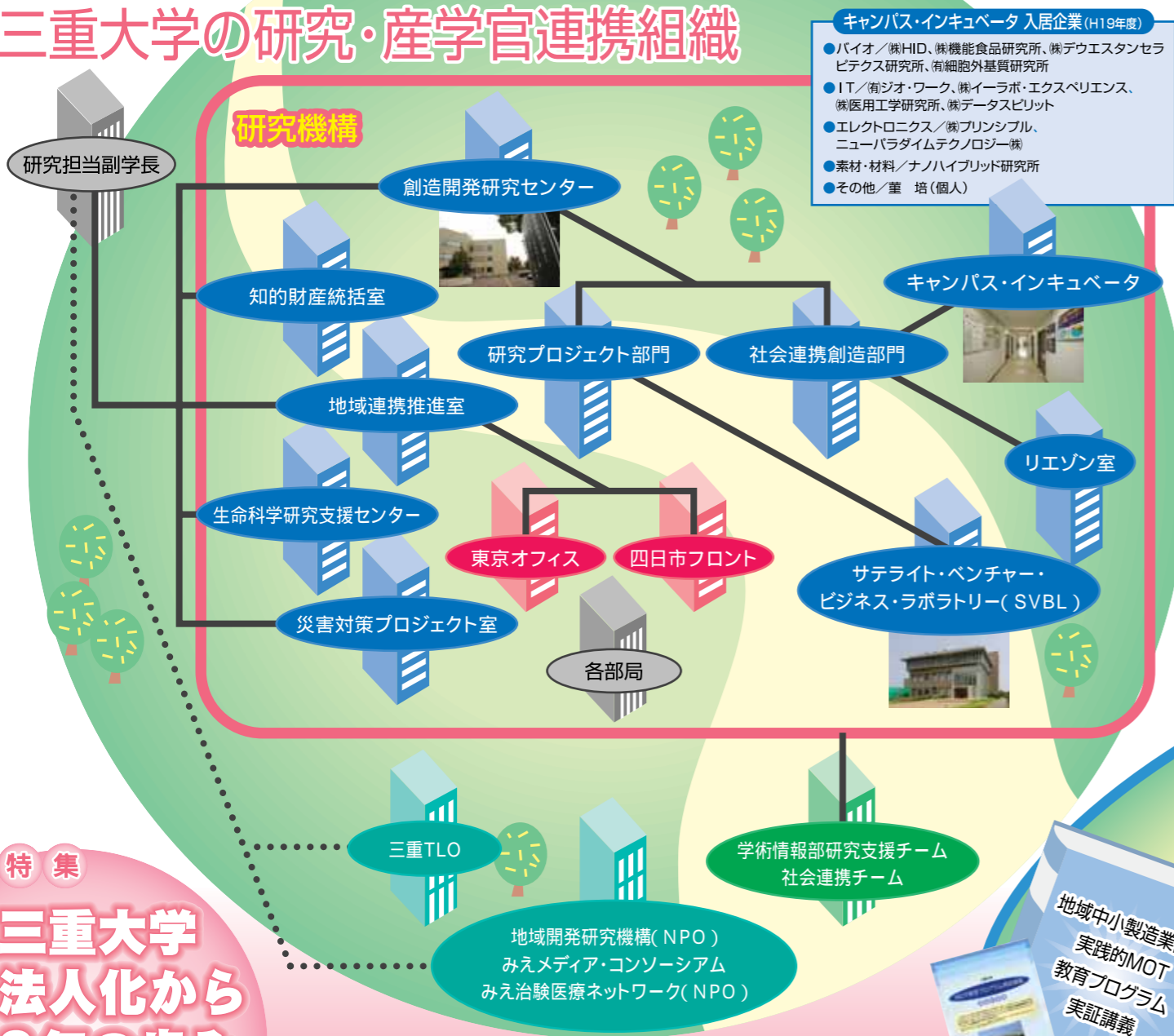
特集
三重大学
法人化から
3年の歩み

地域社会との接点

研究

「世界に誇れるトップレベルの研究」を目指したこの3年、三重大学では、更なる研究・社会連携・社会貢献向上のため、大学組織、研究機構の設置・整備を行ってきました。その結果、地域に向けた講座・教育プログラムなど、様々な成果を上げています。

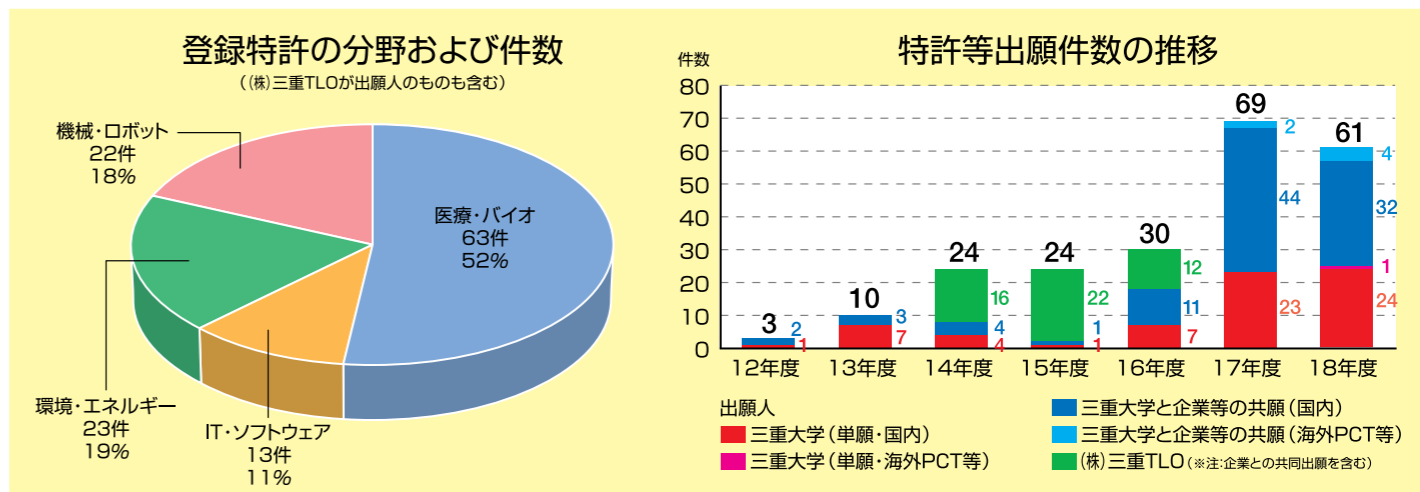
三重大学の研究・産学官連携組織



特集
三重大学
法人化から
3年の歩み

地域社会との接点

三重大学の特許 (H19.1末現在)



知的財産

- **三重大学単独所有公開特許他**
 - ・マイクロバブル発生ノズル
 - ・カーボンナノチューブ成長法
 - ・磁性体を含む材料の検査方法及び装置
 - ・水質浄化用焼結体及びその製造方法
 - ・泥中フミン物質の分離回収方法
 - **三重大学単独所有登録特許**
 - ・抗酸化剤およびその製造方法
 - ・キチン含有廃棄物の処理方法
 - ・血液凝固阻害活性を有するブラジルサシガメ由来のTi-4蛋白質
 - ・血液凝固阻害活性を有するブラジルサシガメ由来のTi-3蛋白質 他
 - **「登録」実用新案他**
 - ・体液漏出防止処置用具
 - ・鍵盤楽器練習用補助器具
 - ・電荷を有する微小球体の保持器具
- 詳しくは、知的財産報告書URL
http://www.crc.mie-u.ac.jp/chizai/files/chizaihokokusho/chizaihokokusho_2006.pdf

産学官連携の講座および教育プログラム



教 育

三重大は、学術文化の発信・受信拠点として「人と自然の調和・共生」を大切にしながら、地域社会や国際社会で活躍できる人材の育成を目標に様々な教育プログラムを展開しています。また、入学から卒業までの学生生活全般のサポートに全力を尽くしています。

電子図書利用のためのリテラシー教育

図書館利用ガイダンスを始め、様々な情報リテラシー教育支援を行っています。
★詳しくは「三重大X」vol.5,6,7,8 Information参照★



国際教育

国際交流・国際協力の拡大と活性化を図るとともに、国際的な課題の解決に貢献できる人材を養成するための数々のプログラムを進めています。
★詳しくは「三重大X」vol.5 (特集・国際交流)参照★



3大学国際ジョイント&セミナー

1994年、3大学(三重大、協定校⇒江蘇大学(中国)、チェンマイ大学(タイ))との国際交流事業として始まりました。世界、とりわけアジア共通の最大関心課題「人口」「食料」「エネルギー」「環境」「文化」「未開拓分野」をテーマに学生自らが取り組み、世界に発信しています。

TOEICを活用したコミュニケーション力の向上

共通教育の英語教育では、2005年4月からTOEIC*を取り入れ、卒業までに社会で通用する「実践英語力」を身につけることができる授業を、展開しています。

※TOEICとは?
アメリカの標準テスト開発機関が作成している、信頼度の高いテストで、国内の教育機関が入学や進級の基準として用いているばかりでなく、多くの企業が採用や昇進の際の基準として採用しています。

PBLチュートリアル教育

三重大では、学生が少人数で自主的に取り組む問題発見解決型教育を全学的に展開しています。



e-learning

インターネットや電子メールに代表される情報ネットワークが大学の教育・研究活動には不可欠です。通信ネットワークや衛星通信を用いた遠隔授業、eラーニングシステムを活用した最新の情報技術を用いた教育が、導入されています。

日本技術者教育認定機構(JABEE)認定の教育プログラム

2005年度、工学部機械工学科、生物資源学部生物圏生命科学科および共生環境学科(地域保全工学講座)がJABEEの認定を受けました。この他、多数の教育プログラムが認定を受けるための準備を進めています。
★JABEEについてはP26参照★

コミュニケーション力

国語力 実践外国語力 情報発信力
発表・討論・対話力

文部科学省大学教育改革支援プログラムに各取組が採択

個性輝く大学づくりなど、高等教育の活性化を促進させる目的で設けられた「文部科学省大学教育改革支援プログラム」に、各取組みが採択されました。
★詳しくは次項参照★



高校との教育連携事業の推進

医学部、工学部及び生物資源学部の協力の下にスーパーサイエンスハイスクール事業を推進。また、高校生を対象とした公開授業(東紀州講座)およびサマーセミナーを開講。

学生総合支援事業

保健管理センター 学生なんでも相談室
キャリア支援センター及び就職支援室等



修学・生活・健康・就職についての相談に応じたり、情報の提供を行い、学生を支援しています。

工学部

- ☆安全管理者
- ◆技術士・技術士補受験科目一部免除
- ☆ボイラー・タービン主任技術者(1種・2種)【機械工学科】
- ☆電気主任技術者1種【電気電子工学科】
- ◆電気通信主任技術者受験科目一部免除受験資格【電気電子工学科】
- ☆無線従事者免許【電気電子工学科】
- ☆毒物劇物取扱責任者【分子素材工学科】
- ◇一級建築士受験資格【建築学科】

医学部

- ◇医師国家試験受験資格【医学科】
- ◇看護師、保健師及び助産師国家試験受験資格【看護学科】
- ◇養護教諭2種免許

人文学部

- ☆図書館司書
- ★学校図書館司書教諭
- ☆学芸員
- ☆中・高教諭1種免許状

教育学部

- ★学校図書館司書教諭
- ☆学芸員
- ☆認定心理士
- 【人間発達科学課程・人間発達科学コース】
- ☆幼・小・中・高教諭1種免許状

取得できる資格・免許

生物資源学部

- ★食品衛生管理者・食品衛生監視員【資源循環学科・生物圏生命科学科】
- ★測量士補【共生環境学科】
- ◇二級建築士受験資格【共生環境学科】
- ★樹木医補【資源循環学科・共生環境学科・生物圏生命科学科】

教育目標

生きる力
主体的学習力 実践力 問題解決力
心身の健康 社会人としての態度 専門的知識・技術 協調性、指導力

感じる力
豊かな感性・気付き 高い倫理性
強いモチベーション 学が喜び

考える力
課題探究力 科学的推論力
キャリアカル・シンキング力

「感じる力」「考える力」「生きる力」とその基盤となるコミュニケーション力の涵養

豊かな自然に囲まれ
充実した教育を受けられるって
最高だね!!



特集
三重大学
法人化から
3年の歩み

GP (グッドプラクティス)

グッド・プラクティス (Good Practice) とは、近年、国際機関の報告書等において「優れた取組」という意味で幅広く使われている言葉です。

文部科学省により、各大学などにおける大学改革の取組が一層推進されるよう、国公私立大学を通じた競争的環境の下で、極めて特色ある優れた取組を選定・支援するため公募が行われてきました。

三重大がこの3年間に採択されたものを簡単にご紹介します。



特集
三重大
法人化から
3年の歩み

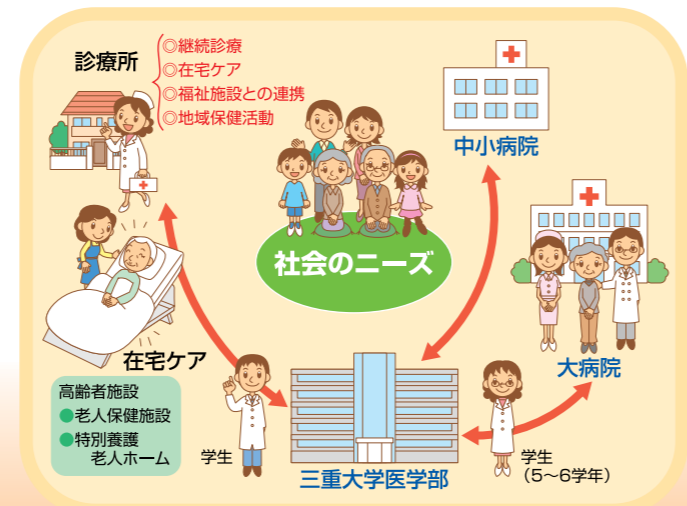
社会のニーズに即した人間性豊かな医師養成

特色GP

特色ある大学教育支援プログラム

平成16年度

地域社会の現場で、人間性と実践的臨床能力を養う医学教育の取組が、他大学にみられない先進的な優れたものとして、平成16年に特色GPIに採択され、以後その改善に努めてきました。3～4学年にPBLチュートリアルで問題解決レベルの知識を身につけ、5～6学年では診療参加型臨床実習で受持患者をもって実習しています。入学時からの計画的な教育の取組により、基本的な臨床能力をしっかり身につけた人間性豊かな医師を養成しています。今後も更に改善を重ね、リサーチマインドをもつ人間性豊かな臨床医を育成します。



◎地域社会を学びの場とした診療参加型臨床実習◎

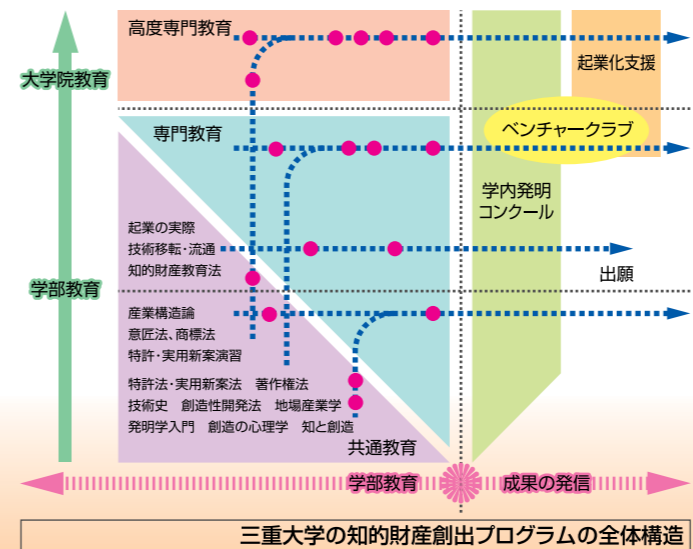
全学的な知的財産創出プログラムの展開

現代GP

現代的教育ニーズ取組支援プログラム

平成16年度

「知的財産教育」は、著作権や特許権といった法的知識を獲得することで、法律家を目指す人など一部のの人に必要な教育と思われるがちですが、そうではありません。三重大の取組は全ての学生を対象に、創造性開発から生まれた知的財産を元にした起業のノウハウまで知的財産教育に含めているのが特徴です。創造性に溢れ、知的財産を尊重し、さらには事業化まで目指す、やる気一杯の「知財マインド」を有した人材が育ちつつあります。



三重大の知的財産創出プログラムの全体構造

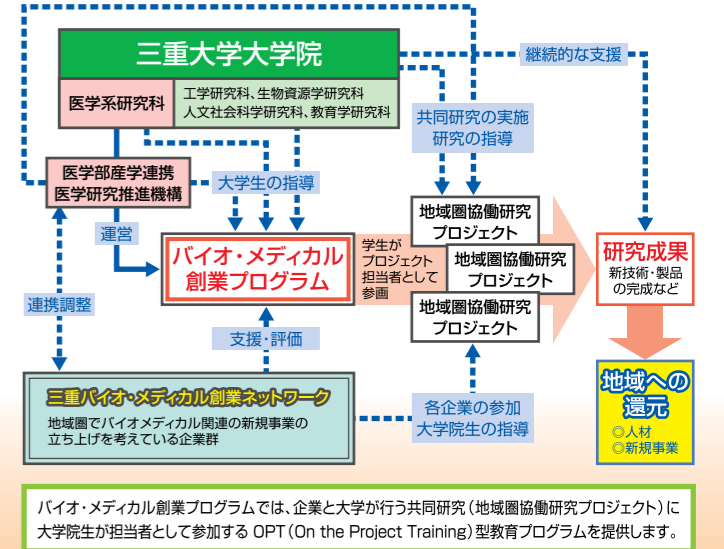
地域圏 バイオ・メディカル 創業人材の育成

派遣型高度人材育成プラン

平成17年度

バイオ・メディカル創業プログラムは、文部科学省派遣型高度人材育成協同プランへの採択を受け設置したものであり、医療系企業で新しいビジネスを創造する起業家タイプの人材を養成する修士課程プログラムです。企業と三重大が行う共同研究に学生を担当事として参加させる実践的な教育を行うことで即戦力人材を育成します。

詳しくは、大学院のホームページ (<http://www.medic.mie-u.ac.jp/med-link/MVPProgram/program.html>) をご覧ください。



バイオ・メディカル創業プログラムでは、企業と大学が行う共同研究(地域圏協働研究プロジェクト)に大学院生が担当事として参加するOPT(On the Project Training)型教育プログラムを提供します。

地域社会や国際社会で活躍できる人材の育成

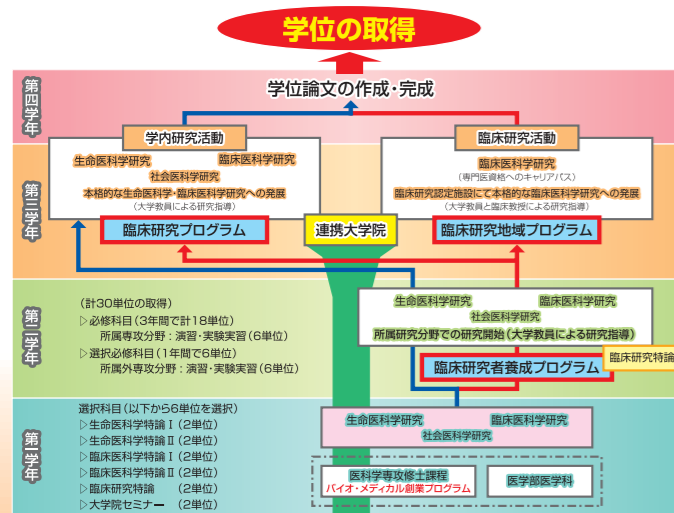
地域と時代に 応える 医学・医療 研究者の育成

魅力ある大学院教育イニシアティブ

平成
18年度

このプログラムは、二つの教育プログラムが柱になります。まず「臨床研究者養成プログラム」です。生命医科学研究の重要性は今後も変わりませんが、その成果を臨床につなぐトランスレーショナルリサーチや、臨床そのものをテーマとする研究者の養成を強化します。もう一つは、「臨床研究地域プログラム」です。大学院教育の場を地域に拡大し地域と関わりながら、高度な専門知識や能力を持つ臨床医を育てます。

詳しくは、大学院のホームページ (<http://www.medic.mie-u.ac.jp/gakumu/index.htm>) をご覧ください。



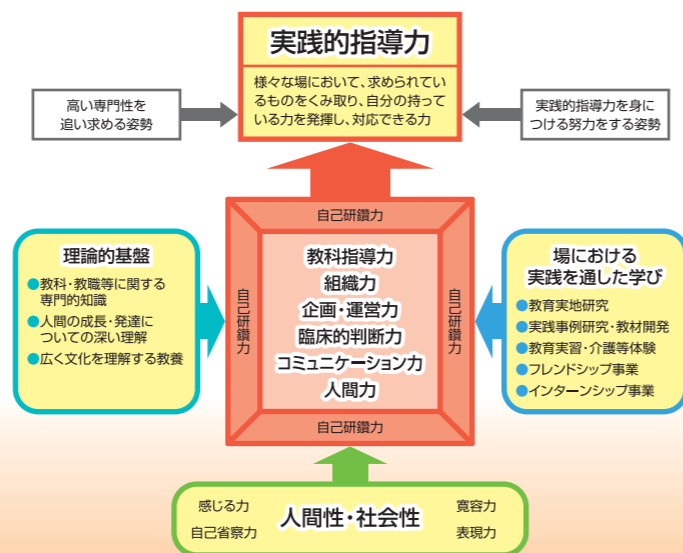
教育実践力の 育成と 学校・地域の 活性化

現代GP

現代的教育ニーズ取組支援プログラム

平成
18年度

教育学部に隣接する一身田中学校区の幼小中学校園と連携して、学生の教育実践力を高める取組と学校・園の教育活性化を目指した取組を行っています。平成18年度は中学校での理科学生の実験指導、家政科学生の調理実習指導、音楽科学生と中学生とのジョイント音楽祭の実施、英語・体育・理科・数学などでの公開授業（指導案検討を含む）、カルチャースクールの開催などを実施しました。

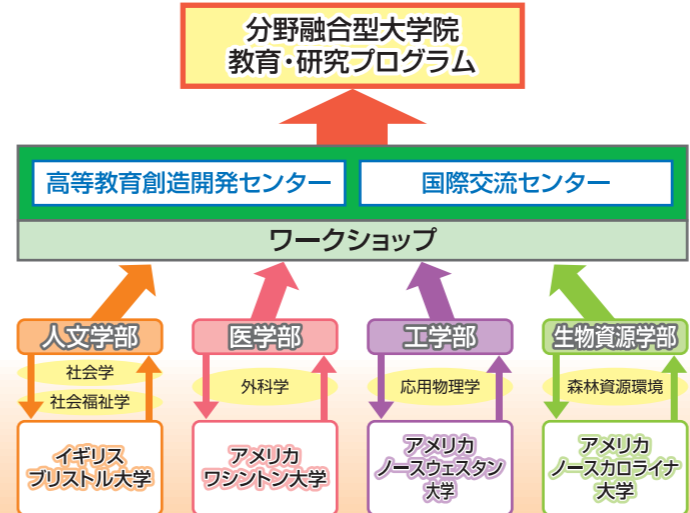


分野融合型 領域の 開拓に向けた 調査研究

大学教育の国際化推進プログラム
(海外先進研究実践支援)

平成
18年度

グローバル化が進み複雑化した世界に通用する、単なる専門家ではない学際的 (Interdisciplinary) ・分野横断的 (Transdisciplinary) ・国際横断的 (Transnational) な国際感覚を持つ指導的人材を養成することを目的に、「分野融合型領域の開拓に向けた調査研究」というテーマで全学から4名の教員を海外に長期派遣しました。今回の取組は、国際性と「分野融合・国際横断的思考、いわゆるシステム指向の考え方」を有する人材を全学的レベルで輩出することができる新しい大学院教育・研究プログラム開発のため中心スタッフの養成に向けたものです。



海外医学部と 連携した 臨床医学教育

特色GP

特色ある大学教育支援プログラム

平成
18年度

学部間協定に基づく大規模な学生交換事業を米国・中国およびアジア・アフリカの開発途上国 (タイ・ザンビア・タンザニア) の大学との間で実施し、国際性豊かな医療、医学教育の担い手を育成することを目的としています。特に途上国での実習では、地域医療と公衆衛生の原点を学び、命の大切さを感じる事が学生に期待されています。詳しくは、医学部のホームページ (<http://www.medic.mie-u.ac.jp/gp/gp2006.pdf>) をご覧ください。

